

毛沢東

著者 ハン・スーイン

本書は、毛沢東の生きたころから朝鮮戦争の時期までを描いた長大な毛沢東伝である。著者ハ

ン・スーイン「歴史家のなかには多くの脚注がある。著者は、かつてアフリカ映画「暴情」の原作者として知られた北米生まれの女流作家であり、最近ほはしば中国を訪問して精力的に取材と執筆を続けている。そのような成

績を織り込みつつ、毛沢東の生涯を中国革命史の巨大なドラマ

のなかに記述してしたが本書である。著者の立場は、ある意味で明白であり、それは、「毛沢東が中国人民の魂を解放したが故に、そしてそれは真の自由を意味する」とか

者。このような意見込みを杜しなからず、本書はあまりにも政治主義的に書かれていすぎることを喜ばない。それは著者が中国の正統的な公式見解にあり、そして忠実でありすぎるため

うに「毛は党内で絶対的な独裁者であった」とは一回もない。劉少奇は、中国革命の当初からいかに一貫して、著者であったかが詳しく述べられて

新しい毛沢東伝

て、劉の親友張國燾にいう姿で張國燾の言葉を引用し劉少奇を批判している。このような筆法め気がなるが、一貫してみると、本書は、たしかに新しい毛沢東伝にはおかないが、その一貫した著者の視点が随所にうかがわれる。問題は、このような視点が中国現代史の良

サンデーメロ 548 . 6 . 4



安井曾太郎

—日本の名画—
原田 実編集

近代洋画の主流を

安井曾太郎氏は生前、横濱三郎氏と並び、日本の近代洋画の主流を代表した画家である。画氏は東京出身で、とくに濱井忠の弟子であり、文化勲章をうけたのも同じ年であった。

安井氏はレアリズムの画家といわれ、風景、静物、人物などをかいたが、安井様式」といわれるスタイルマシオンの強い人物画に著者が多い。写真の「五世若井」

東京外大助教授 中嶋 雄雄